

前期は、全国的に例年にない異常気象に見舞われ、県内でも多くの災害が起こりました。9月20日には、台風第14号の影響により休校になりました。

9月26日は、統計上 台風襲来回数が多い日で、過去に大きな被害をもたらした台風が襲来しています。1954年(昭和29年)に「洞爺丸台風」で青函連絡船洞爺丸が転覆、1958年(昭和33年)には「狩野川台風」が伊豆・関東に襲来、さらに1959年(昭和34年)「伊勢湾台風」が東海地方に上陸したのは全て9月26日でした。

「伊勢湾台風」では、全国で死者・行方不明者5,000人、家屋被害57万戸という甚大な被害をもたらし、その被害者数は、当時、第二次世界大戦後の自然災害で最多のものでした。



写真：伊勢湾台風(1959年)

「台風に備える」身を守るためにしておきたいこと・準備しておきたい10のこと

大雨や暴風から身を守るには、事前の準備が大切です。どんな準備をしておけばよいでしょう。知っておくべき10のことをまとめました。

- ① 家の「外」の危険をチェック(側溝や排水溝を掃除して水はけをよくしておく、停電時でも車の中で暖を取ることやスマホの充電ができるように車のガソリンを満タンにしておく)
- ② 家の中でも注意を(窓や雨戸にカギをかけておく)
- ③ 「飲料水」や「非常食」を備蓄する(飲料水3日分/1人1日分3L、非常食3日分)
- ④ 停電で冷蔵庫やエアコンが機能しない場合に備える
(体を冷やすためには、首や脇を冷やすと効果的、ペットボトルに水を凍らせておくことも有効、融けた水は飲料水や生活用水としても使える)
- ⑤ 「非常用持ち出しバック」を備える
(非常時に持ち出すものをリュックに詰め、枕元に置くなどしていつでもすぐに持ち出せるようにしておく。
バックは、両手が使えるようリュックサックが好ましい)
- ⑥ 「避難場所」や「避難経路」を確認する
(日頃から家族で安否確認の方法や集合場所を話し合っておく)
- ⑦ 安否確認の方法を家族で共有
(災害用伝言ダイヤル「171」に電話を掛けると録音でき、家族などが伝言を再生できる)
- ⑧ 外出は控える(家屋の補修は、台風の接近前に終わらせる)
- ⑨ 命を守るために早めの避難を(迷うことなく、自主的に避難する)
- ⑩ 「インターネット」や「テレビ・ラジオ」で情報収集する
(大雨・洪水警報の危険度分布が一目でわかる気象庁の「キキクル」
<https://www.jma.go.jp/bosai/> で最新の情報が入手できる)

